

令和2年度通常総会・理事会開催報告

総会・理事会は当協議会会長であるTOTO株式会社の張本相談役による開会の挨拶と、国土交通省の黒田昌義大臣官房審議官、経済産業省の大内聡大臣官房審議官のご挨拶を頂いた後、張本会長が議長として会議を進行し、各委員会の委員長による令和元年度の活動実績報告、新規入会企業の承認が審議されました。その後、役員交代とそれに伴う会長及び副会長の、理事による互選により、大和ハウス工業株式会社の芳井社長が新会長に選任され、その後は芳井新会長が議長として、令和2年度の事業方針や事業計画案などが審議され、全ての議案が承認されました。

本来、総会・理事会にご出席の皆さまによる中国に関する意見交流会と懇親パーティが行われる予定でしたが、コロナウイルス感染予防のため、今年度はやむなく中止としました。

日 時：令和2年7月9日（木）

15時～16時 総会・理事会議案審議

場 所：如水会館 スターホール

出席者：理事；17社中 16名（委任状1名）

会員；64社中 37社（委任状24社）

開会の挨拶：張本会長

この日中建協がスタートして35年経ち、日中間の関係がますます強化されていると思います。昨年度は8月に訪中いたしまして、中国不動産協会、中国建設科技集団との間で建築生産工業化に関する覚書を結ぶことができました。それを受けまして11月に北京で日中組立式建築セミナーを開催いたしまして、参加者は1,100人にも及びました。同時にインターネットでライブ配信を行い、合わせて26,000人強という方にもご参加いただいております。大変興味をもってご覧いただけたかと思えます。

また11月には大和ハウス工業様のホールをお借りいたしまして、敬愛大学の藪内先生による講演会を開催し、114名の方と、大変興味深いお話をお聞きしたのが、今でも印象に残っております。また中国からは、昨年7団体の方々が日本に来られました。企業や工場の他、さまざまな施設を見学されております。その節には会員の皆さまには大変ご協力を賜りましたこと、改めて御礼を申し上げたいと思えます。その他、昨年10月に成都で開催されました、センター間会議の日中建築・住宅技術交流会議には、日中建協の会員企業からも9名の方にご参加をいただきまして、内陸に位置する成都の発展の様子もご視察いただけたかと思えます。昨年の8月、久しぶりに訪れた北京では、行くたびに急激な発展をしているというのが目に見えてわかりました。昨今中国は、このコロナ禍で大変な状況ではございますが、まだまだ発展の余地があるのではないかというのを痛感してきたところ

でございます。政府が景気回復に力を大変注いでおりますので、デベロッパーを中心に、大型のいわゆるマンション系は、計画がかなり進んできておまして、比較的早い時期に回復するのではないかと考えております。このような情勢ですが、中国はまだまだ成長し、なおかつ日本の建築に対して大変興味がある国でございますので、中国の建築住宅市場に関しましては、まだまだこの日中建協がご貢献できると思っており、今後ともぜひ皆さまのご支援とご鞭撻をお願いしたいと思います。簡単ではございますが、私のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

————— 議案審議 —————

総会議題

- 第一号議案 令和元年度事業報告承認の件
- 第二号議案 令和元年度収支報告承認の件
- 第三号議案 令和2年度事業計画承認の件
- 第四号議案 令和2年度予算承認の件

理事会議題

- 第一号議案 令和元年度事業報告承認の件
- 第二号議案 令和元年度収支報告承認の件
- 第三号議案 新規加入会員承認の件
- 第四号議案 役員交代の件
- 第五号議案 令和2年度事業計画承認の件
- 第六号議案 令和2年度予算承認の件

1. 中国中央政府は、ここ数年「住宅建築の工業化」について、地方政府やデベロッパー、建設会社などに対して強く要請を行い、推進の加速を目指している。それを受けて当協議会は昨年、建築生産工業化に関する日中協力の覚書に調印し、北京にて「日中組立式建築セミナー」を開催した。また昨年1年間で政府機関、建設会社、設計事務所など7件の訪日団を受入れた。このように、中国側の住宅建築工業化に関する日本への期待は非常に強く、引き続き具体的な協業を進めていく。
2. 訪日客の落ち込みはあるものの、来年には東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、中国からの訪日客数は回復が見込まれる。当協議会は、民間企業を主とした団体として、人、情報、事業に関わる交流を発展させ、日中関係の活性化を促進していく。

総会・理事会の報告内容と決議事項は、会報誌『日中建協 NEWS』No.247号（2020年9・10月号）に詳しく掲載しています。